

Oesol ウェソル (孤松) 崔鉉培 Choe Hyeonbae チェ・ヒョンベ先生の学問

権在一 Gweon Jaecil クォン・ジェイル (ソウル大学言語学科)

kwonjil@snu.ac.kr

1. 序言
2. 国語を眺める 2 つの目
3. 『우리말본 (朝鮮語文法)』とウェソル先生の言語学研究
4. 『한글갈 (正音学)』とウェソル先生の訓民正音と文献研究
5. 結語—ウェソル先生の学問の正しい継承のために

1. 序言

わたくしは 567 回のハングルの日*を記念して開かれる今日の学術大会で朝鮮語・朝鮮文字研究でひとときわそびえた Oesol ウェソル崔鉉培先生が成し遂げた学問について申し上げようと思います。ウェソル崔鉉培先生の故郷であるこの蔚山 Ulsan**ウルサンでウェソル先生の学問について再び考察するというのはたいへん意義深いことであると思います。

*【訳注】한글날 Han'geulnal ハングルラル。『世宗実録』によると世宗は大統暦世宗 28 年 (=正統 11 年, 西暦 1446 年) 9 月に『訓民正音』を公布。1926 年朝鮮語研究会 (現在のハングル学会) は時憲暦 9 月末日 (9 月 29 日, グレゴリオ暦 11 月 4 日) にハングル公布第 8 回甲 (480 周年) 記念日すなわち「가갸날 Gagyanal カギャナル (カギャの日)」として祝った。1928 年に周時経の命名になる文字の名称ハングルにより「ハングルの日」と改称した (時憲暦に従う)。1931 年ハングルの日はグレゴリオ暦の 10 月 29 日に変更, 1934 年は正統 11 年 9 月末日をグレゴリオ暦の 10 月 28 日に変更した。1940 年に発見された『訓民正音解例』の鄭麟趾の序から『訓民正音』が 9 月上旬に布告されたことが明らかとなり (大統暦正統 11 年 9 月 10 日グレゴリオ暦 1446 年 9 月 10 日), 独立後韓国政府は 1945 年 10 月 9 日にハングルの日を定めた。北朝鮮では大統暦世宗 25 年 (=正統 8 年) 12 月 (西暦 1443 年 12 月-1444 年 1 月) に世宗が「訓民正音」を作成したことを記念して 1 月 15 日を「조선글날 Joseon-geulnal チョソングルラル (チョソングルの日)」とする。

**【訳注】慶尚南道 Gyeongsang-Namdo キョンサンナムド最北の海岸に面している工業都市。現在蔚山 Ulsan ウルサン広域市。

ウェソル先生は国を失った困難な時代に周時経*先生の意思を受け継いで朝鮮語と朝鮮文字を研究することはわが民族文化を守ることであり、民族文化を守るとはまさにわが国を取り戻し、民族を守っていく道であると考えました。そこでウェソル先生の学問の性格を一言で言うならば、朝鮮語と朝鮮文字の「研究」と「愛」、2つの実践であると言えます。ウェソル先生の学問は国語研究を言語学に昇華させ、これを土台に国語を守って育てる愛の運動を実践したということに意義があります。そこでウェソル先生は卓越した学問の業績を残した国語学者であり、かつわが民族文化と精神をひるまず守った国語運動の実践家でした。今日わたくしの発表はまさにこのようなウェソル先生の学問についてともに考えてみたいということです。

*【訳注】(1876年12月22日-1914年7月27日) 12歳で漢陽 Hanyang ハニャン [現在のソウル] に上京、李会鍾書堂でおおよそ4年間漢文を学ぶ。1893年培材学堂で数学、万国地誌、歴史、英語などの新学文を学ぶ。1895年独立協会に参加、1896年4月7日から発行のハングルのみの新聞「独立新聞」の会計、校補員 [編集局長]、1897年培材学堂万国地誌学科卒業、1897年『国語文法』完成 (未出版)、1906年『大韓国語文法』、1908年『国語文典音学』。1907年朝鮮政府によって国文研究所が設立され、研究員に抜擢される。1908年国文研究会を発足させる (これが朝鮮語学会、ハングル学会の前身となる)。急病により39歳で死去。

ウェソル先生は生前数多くの著述を残しました。その中で学問的に最も卓越した著書は1937年初刊行の『우리말본 (朝鮮語文法)』と1940年初刊の『한글갈 (正音学)』です。『우리말본 (朝鮮語文法)』は現代朝鮮語の音韻、単語、文について豊富な資料を土台に科学的に研究した本であり、『한글갈 (正音学)』は朝鮮の古文献を体系的に整理しつつ訓民正音についての本格的に研究した本です。ここでこの2つについて考察し、今日を生きていくわれわれがウェソル先生の学問をどのように土台として継承していかなければならないかを共に考えてみたいと思います。

これに先立って歴史的に朝鮮語と朝鮮文字を見てきたその間の観点についての許雄先生の見解を紹介したいと思います。これを通じてウェソル先生の学問的性格が占めている位置を確認することができますでしょう。

2. 国語を眺める2つの目

許雄先生はその学問を整理する段階でいろいろな講義、講演、文章で「朝鮮語と朝鮮文字を見て来た/見る2つの目」というテーマで国語学の目標について話

したことがあります。『Hanhinsaem ハンヒンセム（白泉）周時経研究』第12号（1999）に載せた文章によれば先生の考えは次のとおりです。

「われわれが朝鮮語と朝鮮文字を見る目は2つである。限りなく愛する気持ちをもって朝鮮語と朝鮮文字を学び、研究し、守り、教える人たちがいるかと思えば、外国の言語と文字を見るようにする人々もおり、より否定的な目は外国の言語と文字に対して朝鮮語と朝鮮文字を見下す人々も存在してきたし、そして今もいるのである。前者は言語と文字に対する民族史観であり、後者は言語と文字に対する植民史観である。

このような2つの見解の対立は訓民正音を作る動機についての解釈にもあらわれる。歴史の記録に従って、世宗の民族自主精神と民本精神とあの方の独創的な頭とあの方の進取的性格が訓民正音を作り出した基礎となったことを高く讃える国語学者たちがいる反面、訓民正音はそのようなところで作られたものではなく、漢字の音を付けるために作ったと言い張る人々がいる。

このように過去でも現在でもわが民族の、わが歴史と朝鮮語と朝鮮文字を見て来た/見る目が2つなのだが、このような歴史を担って現実を生きていく今のわれわれは朝鮮語と朝鮮文字をどのような目で見なければならず、またどのような態度で学ばなければならず、研究しなければならず、教育しなければならぬのだろうか？

そこでわれわれは、「金富軾*- 崔萬理**- 申欽***」のような漢学のソンビ（士人）たちの国語観を退け、「世宗大王****- 金萬重*****- 周時経- 崔鉉培」の系列をつなぐ線で国語を見、研究し、教育しなければならぬのである。日本の植民地観がわれわれの間にまだ残っているように、日本の学者たちが朝鮮語と朝鮮文字を研究したその態度が今もわが国語学者たちの間にまだ残っている現実をわれわれは直視しなければならないだろう。」

* 【注】（1075年-1151年）高麗の官僚、儒学者。『三国史記』の編纂者。

** 【注】（?-1445年〔世宗29年〕）集賢殿副提学だった崔萬理は訓民正音に反対する上疏文を提出したことで知られる。

*** 【注】（1566年〔明宗21年〕-1628年〔仁祖6年〕）。文臣。

**** 【注】（1397年-1450年）李朝第4代国王。在位1418-50年。訓民正音の公布だけでなく、農業の重視、文化事業の推進、儒学の導入その他の業績が大である。

***** 【注】（1637年〔仁祖15年〕-1692年〔肅宗18年〕）。西人派の文臣で小説家。代表作：ハングル小説『九雲夢』、『謝氏南征記』。漢文崇拜の当時の風潮の中では画期的なことであり、朝鮮国文学発展の先駆者。

3. 『우리말본 (朝鮮語文法)』とウェソル先生の言語学研究

3.1. 『우리말본 (朝鮮語文法)』の意義

「ウェソル先生が 1 つの民族の文化創造の活動は、その言葉によって初め、その言葉によって行い、その言葉によって残すものであることを深く認識し、われわれの創造的活動の基づいた道であり、道具であり、またその成果の蓄積である朝鮮語について前後の矛盾のない体系を立てて研究した結果がまさに『우리말본 Urimalbon 우리말본 (朝鮮語文法)』」。このお言葉が許雄先生の『우리말본 (朝鮮語文法)』に対する評価です。続いて次のように学問的な意義を明らかにしました。¹⁾

(1) 「ウェソルの『우리말본 (朝鮮語文法)』は、その資料の豊富さと解釈の精密さと体系の独創的な点から見て、その先人から大きく飛躍したのは勿論、その後、半世紀以上たっても、資料、解釈、体系においてこれに続くべき業績が上がってこないでいる。『우리말본 (朝鮮語文法)』は実に 20 世紀初頭の国語学の金字塔である。この本は読みかつ読む必要があり、引継ぎまた受け継ぐ価値のある名著であることを強調している」[許雄(1993;174)]。

このような土台から今『우리말본 (朝鮮語文法)』の研究対象と研究方法について観察することにしてしよう。²⁾

3.2. 研究対象

『우리말본 (朝鮮語文法)』ではその研究対象を朝鮮語の法(본 bon ボン [本, 規範])を研究するものであると規定しました。言語(말 mal マル)には一定の法があるのだが、その法を語法(말본 malbon マルボン [文法])と言って、その語法を研究する学問を語法学(말본갈 malbon'gal マルボンガル [文法論])と規定しました。人は、考えと感じをあらわすために、いろいろな単語(낱말 natmal ナンマル)を括り付けて用いるのですが、語法とはすなわち単語を用いて文(문 weol ウォル)を構成する過程であるとしつつ、このような語法は個人の頭の中の考えによって作り出すのではなく、客観的に社会的に実在する言葉に土台を置くと規定しました。

『우리말본 (朝鮮語文法)』は大きく 2 つの部分から構成されています。「音声学(말소리갈 marsorigal マルソリガル)」と「語法学(말본갈 malbon'gal マルボンガル)」がそれぞれですが、「語法学」は今度は詞論(씨갈 ssigal シガル [品詞論])と文章論(문갈 weolgal ウォルガル [統辞論])に分かれます。[3-4] 詞論が文の構成材料である単語の形式と文における作用を研究対象とするのに比して、文章論は文に関するいろいろの現象を明らかにすることを研究対象とするとし、文章論を、言葉によって一つの統一された考えをあらわす形式を記述して研究

するものと規定しました。

(2) 単語がすなわち言語全体ではないのであって、語法は単語を操って文を作るのに成立するものであるから、単語を修める詞論はただ文章論の姿となるのみであって、それ自体がすなわち語法なのではない。語法は確実に文章論によってその役割を果たすのである。すなわち文章論は詞論で研究した単語がどのように互いに絡み合って完全な思想を表すことになるのか、その運用関係をほぼ総合的に研究するものである[4, 529]。

詞論は考えを表す材料を研究する分析的、静止的なものであるのに比して、文章論はそのような材料で文を作って考えを表す法を研究する総合的、活動的なものであるとその性格を規定しました。文章論は詞(씨 ssi シ[種子])の相関的運用であり、単語を個別的に見ないで相関的な運用を研究することを文章論と規定しました。『우리말본(朝鮮語文法)』で文章論の概念を上のように規定したことはたいへん注目すべきことです。なぜならば語法の中心たる目標が文章論にあることを明白に提示してくれているからです。人が考えをあらわそうとすれば、必ずいろいろの単語を互いに絡め合って文を作らなければならないので、詞論よりは文章論の方が文法論の核心的であり究極的目標であることを明らかにしてくれました。このような考えは、文の構成の規則と原理を明らかにし、説明しようとする現代言語学研究にまでそのまま受け継がれているという点で、研究史的にその意義がたいへん大きいと言えます。『우리말본(朝鮮語文法)』で記述した文章論の具体的な研究対象は次のとおりです。

(3) 文章論の範囲

1. 総論
2. 文の素材
3. 文の成分
4. 文の成分の呼応
5. 文の分類
6. 文章符号法

ここで現代言語学の文論の主要な研究対象をすべて含んでいることが確認できます。したがって研究対象の観点から見ると、『우리말본(朝鮮語文法)』は非常に体系的な叙述であると言えます。特に文の成分で提示した語順、省略の現象、そして文の成分の間の制約の現象等は現代言語学の主要な課題としてそのまま継承されていることは注目すべき事実であると言えます。結論的として『우리말본(朝鮮語文法)』は朝鮮語語法研究を根幹の軌道に載せた研究だと評価できます。

3.3. 研究方法

『우리말본 (朝鮮語文法)』は基本的に科学的研究の方法論に土台を置いています。次のような叙述でこれを確認することができます。

(4) 文法は個人の頭の中の考えによって作り出すものではなく、客観的に社会的に実在する言葉に土台を置いている。帰納的にその法 (본 bon ポン) を探し出すのである。それ故、語法学の法は記述的、説明的であることがその本性であると言えよう。しかし一度発見されて一般が認めた語法学の法は、後にその言葉を用いる人、学ぼう人に対しては、規範的になるのである[3]。

上の叙述でまず帰納的な方法を指摘することができます。語法の研究対象として言葉は客観的に社会的に実在する言葉であるとししました。語法はこのような言葉に対して帰納的にその法を探し出すものだとし明かにしています。また上の叙述から見ると、語法の研究は言語資料を観察して、これを記述して、説明する過程を経なければならないということを提示しました。客観的な言語資料を対象としてこれを帰納的に記述して説明することが語法研究の本性としたのですが、これはまさに科学的研究方法の基本態度そのものです。

またウェソル先生は語法研究の規範的な性格を強調しました。『우리말본 (朝鮮語文法)』の目的は、客観的な個別言語としての朝鮮語の正確な記述と説明にのみあるものではなく、朝鮮語と朝鮮文字のための実践的な価値そして朝鮮語教育のための実用的価値にもありました。ウェソル先生はわが民族がよみがえることのできるいろいろな道の中で重要なのは民族の固有文化を轟き興すことであるとして、固有文化の中でも言語と文字が最も重要であるということを次のように強調したことがあります。

(5) 1つの民族の文化創造の活動は、その言葉によって初め、その言葉によって行い、その言葉によって残すものであるから、今朝鮮語は、割り引いても半萬年〔五千年〕の流れにおいて、朝鮮人の創造的活動の基づいた道であり、道具であり、またその成果の蓄積が及んだものである[1]。

『우리말본 (朝鮮語文法)』の重要な方法論的特徴のうちの一つは言語事実の記述と説明における「体系化」です。与えられた特定の現象を合理的に理解するために体系を立てて把握する方法です。体系を立てるためには何よりも妥当性と一貫性を持つ基準が設定されなければなりません。ある一つの部分を体系化するために設定された基準がその部分の体系化にのみ終わるのではなく、同じ現象の中で再び他の部分を体系化するためにも用いられ得なければなりません。『우리말본 (朝鮮語文法)』では、文の成分、文の体系、そして複文 (겹을 gyeobweol キョブオル) の下位体系等のいろいろの記述でこのような体系化の記述が目立っています。

一例を挙げると、単語の構成と文の構成で一貫性ある基準を提示して体系を

立てました。関係を並立 (벌림 beollim ポルリム), 合一 (어우름 eoureum オウルム), 主従 (거느림 geoneurim コヌリム) と設定し, これを基準にして複合語 (겹씨 gyeobssi キョブシ) の下位体系と複文の下位体系を記述しました[625].

(6) ア. 並立関係: 並立複詞* (벌린씨 beollinssi ポルリンシ) - 並立文 (벌린월 beollinweol ポルリンウォル)

カ. 合一関係: 融合複詞** (녹은씨 nogeunssi ノグンシ) - 連合文 (이은월 ieunweol イウンウォル)

サ. 主従関係: 有属複詞*** (가진씨 gajinssi カジンシ) - 包有文 (가진월 gajinweol カジンウォル [内包文])

* 【注】例: 単語「부모 bumo プモ<父母>」.

** 【注】例: 単語「강산 gangsan カンサン<江山> [山川]」= 「국토 gugto ククト<國土>」.

*** 【注】例: 単語「돌다리 doldari トルダリ [石橋]」.

『우리말본 (朝鮮語文法)』の研究方法の中で注目すべき事実の中の一つは, 外来及び先行の理論を批判的に受容し, これを朝鮮語の特性に合うように発展させたという点です. これはウェソル先生の, 民族的理想を土台とする世界化の感覚に基盤を置いたものと解釈できます. ウェソル先生は早くから世の中を眺める目が非常に広がったのです. 金錫得* Gim Seogdeug キム・ソクトウク教授は, ウェソル先生は「新学問には早く目を開き, 進取の気象と新しさを開拓しようという理念を持っていたが, このような理念の根本は民族魂に位置しており, このような民族魂を土台に世界を眺めたこと」としました (金錫得 2000). ウェソル先生は『조선 민족 갱생의 도 (朝鮮民族更生の道)』で, 世界人になる前にまず朝鮮人になれと言いました. これはウェソル先生の民族を土台とする世界化の感覚でもあります. 『우리말본 (朝鮮語文法)』の次のような叙述も脈を同じくしています.

* 【注】延世大学国語国文学科教授, 主任教授, 延世大学副総長, 名誉教授.

(7) それ故, 他の国の語法を修めて, 朝鮮語の語法を修めることに参考に用いることはかまわないだけでなく, むしろもっぱらそうしなければならないであろうが, 隙間なく他国の語法にばかり従って, 自分の言葉の特有の性質と法則を考察しないことはとても大きな誤りであると言わざるを得ないのである[3].

一般に外来の理論を受容する態度はだいたい次の3つの類型として現れます. 第1の類型は無批判の受容の態度であり, 第2の類型は受容に対して無批判の排斥あるいは無関心の態度ですが, このような2つの類型はすべて警戒しなければならない態度です. 第3の類型は批判的な受容の態度ですが, これは外来の理論を批判的に受容してこれを独創的な理論に発展させる最も望ましい態度

です。一言で『우리말본 (朝鮮語文法)』で外来の理論を受容した態度は第3の類型に属します。朝鮮語の特性を正しく理解した基礎において、日本と西洋の学者の理論を批判的な観点から受容した態度です。『우리말본 (朝鮮語文法)』を見ると、日本と西洋の学者の理論に対する批判がいろいろなところにあらわれているだけでなく、外来の理論で解釈しにくい言語現象は朝鮮語の特性に合う理論を体系的に立ててすべて明らかにしました。『우리말본 (朝鮮語文法)』のどの叙述であれ、朝鮮語の特性が考慮されないものはありません。

朝鮮語研究史で時折『우리말본 (朝鮮語文法)』が体系と内容で日本の学者山田孝雄 Yamada Takao の本を模倣したと指摘し、その価値を貶めようとする批判に時折対することになります。しかしこのような批判は正しいものではありません。ウェソル先生は単語の定義と品詞分類の論理的な枠組のために、日本の学者山田の理論を応用しましたが、山田の本にはない冠形詞 (어떤씨 eoddeonssi オットンシ [連体詞]) を設定し、存在詞*を形容詞 (그림씨 geurimssi クリムシ) の中に入れ、代りに指定詞** (잡음씨 jabeumssi チャブムシ) を設定したことはすでに権在善*** Gweon Jaeseon クォン・ジェソン教授が明らかにしたところです (権在善, 1988)。

*【注】朝鮮語の있다 issda イッタ (日本語の「ある」、「いる」に対応する) は없다 eobsda オプタ (日本語の「ない」、「いない」に対応する) と同じく形容詞型に属する。계시다 gyesida ケシダ (「いらっしゃる」) は時に形容詞型となり、存在詞に入れられる。

**【注】日本語の「だ」、「である」に対応する付属語 -이다 ida イダ及び 아니다 anida アニダ (「(で) ない」)。

***【注】大邱 Daegu テグ大学国語国文学科名誉教授。代表著書:『훈민정음연구 (訓民正音研究)』,『국어학발전사 (国語学発展史)』。

外来の理論の受容と関連して非難しなければならない事実は外来の理論の無批判の模倣や翻案的研究です。例えば過去 60~70 年代アメリカの変形生成文法理論を無批判に受け入れて朝鮮語を言語資料として研究したことはまさに非難されなければならない受容の態度であろうし、変形生成文法理論を朝鮮語の特性に合うように批判的な観点から受容し、発展させた研究はわれわれがむしろ志向しなければならない研究態度でした。それ故『우리말본 (朝鮮語文法)』のある叙述が単純に日本の本のどれかと一致すると言ってこれを非難することはまったく穏当な主張ではありません。これについて金次均* Gim Chagyun キム・チャギョン教授も具体的に指摘したところです (金次均, 1993)。

*【注】忠南 Chungnam チュンナム大学言語学科教授, 名誉教授。

言語理論にはいろいろの言語にあまねく適用され得る一般的なものと、特に個別言語にのみ適用され得る特殊なものがあります。言語学者はこのよう一

般理論や概念を基礎に各個別言語を記述してその言語で発見される特殊な言語事実を明らかにし、個別言語の体系を立てます。このような言語学の方法から見る時、理論的概念を他の言語学書で受容、応用することは当然であり、かつ必要なことでしょう。したがって『우리말본 (朝鮮語文法)』が日本と西洋の学者の理論を受容したとしても、朝鮮語の文法を最初に完璧に、整然たる体系をもって叙述し、それだけでなく外来の理論としては解釈しにくいいろいろの言語事実を明らかにして朝鮮語の特性に合う理論で体系化したことは朝鮮語研究史に長く残る業績だと断固と言えるのです。

単に外来の理論だけでなく、周時経先生のような先行の学者たちの研究も批判的に継承して発展させたことを『우리말본 (朝鮮語文法)』で見ることができます。しかしウェソル先生は周時経先生の学問的な精神と態度をそのまま受け継ぎましたが、具体的な学説まで盲従はしませんでした。周時経先生の分析的体系を止揚して、総合的体系を立てたのがそのような一例です。

結論的に申し上げて、『우리말본 (朝鮮語文法)』の研究方法是現代的な意味で国語学が芽生え始める頃に、国の内外の数多い研究業績をあまねく渉猟し、それを果敢に受容し、朝鮮語の特性に合うようにもっと磨きをかけ、国のうちでも外でも得ることのできない知識は広く深い思索を通じて創案した理論であると言えます。

3.4. 文の体系

『우리말본 (朝鮮語文法)』では2つの観点から文の体系を立てました。その一つは「構造 (짜임새 jjajimsae チャイムセ)」という観点であり、もう一つは「性質 (바탈 batal パタル)」という観点です。性質は、話し手の聞き手に対する意向 (態度) を意味するものと理解されます。構造による文の体系は主語 (임자말 imjamal イムジャマル) - 述語 (풀이말 pulimal プリマル) の関係に従って「単文 (홀월 hotweol ホドゥオル)」と「複文 (겹월 gyeobweol キョブオル)」に体系化し、性質による文の体系は意向法体系によるものですが、叙述文 (베풀월 bepulmweol ペプムオル)、疑問文 (물음월 muleumweol ムルムオル)、命令文 (시킴월 sikimweol シキムオル)、請誘文 (괴임월 ggoeimweol クエイムオル [勧誘文]) に体系化します。

まず構造による文の体系です。『우리말본 (朝鮮語文法)』で文を、その構造によって、単文と複文に体系化しました。主語と述語との関係が1度だけ成立した文を単文と規定し、主語と述語の関係が2度あるいはそれ以上成立するもの複文と規定しました。このような規定は「主語と述語の関係」というものを基準として文の体系を立てたことを意味します。このような基準と体系は、内容にお

いて少し違いがありますが、今まで朝鮮語の記述で受け入れているものです。

複文は1つの文に2つ以上の語節(마디 *ma-di* マディ [文節])は文と規定しました。そして複文を「語節の結合関係の姿」という基準のよって包有文[内包文]、並立文、連合文として下位体系を立てました。ところで複文の下位体系を立てるにはとても苦心した痕跡を見つけることができます。

(8) わたくしが複文の分類についてずいぶん長い間した苦労は並大抵のものではなかった。どこかの国の語法に従おうとしても合わず、先人の分類法に従おうとしても合わなかった。……この3つの結合関係맺음 결림メジウムコルリムとその関係による複文の3つの分類はあの山田氏の分類のような結果を示したのである。しかしこのような分類は単に単純な模倣から出て来たのではなく、朝鮮語の文のいろいろの実際の性質を分類、考察した結果として上のようにしたのである[625]。

包有文[内包文]はなんらかの語節が文のある位置を成し、文の成分を成すことを言います。主節(으뜸마디 *euddeum-ma-di* ウットウムマディ)が従属節(말림마디 *ddallim-ma-di* タルリムマディ)(副詞節{어찌마디 *eo-jji-ma-di* オッチマディ}、冠形節{매김마디 *mae-gim-ma-di* メギムマディ [連体節]}、名詞節{이름마디 *ireum-ma-di* イルムマディ}、述語節{풀이마디 *pul-i-ma-di* プリマディ})を持った複文です[626]。

(9) 아. 나뭇잎이, 소리도 없이, 떨어진다.

Namus'ipi, sorido eobsi, ddeoleojinda.

ナムンニピ, ソリド オプシ, トロジンダ.

木の葉が, 音もなく, 落ちる.

カ. 향기가 좋은 꽃이 만발하였다.

Hyang'giga joheun ggochi manbalhayeo ssda.

ヒャンギガ チョウン コチ マンバルハヨッタ.

香りが よい 花が 満開だった.

サ. 달이 밝기가 낮과 같다.

Dali balg'giga najgwa gatda.

タリ パルキガ ナックァ カッタ.

月の 明るさ(月が 明るいこと)が 昼の ようだ.

タ. 후덕한 사람은 인망이 높으니라.

Hudeoghan saram-eun in-mangi nopeunira.

フドッカ ン サラムン インマンイ ノブニラ.

厚德の 人は 人望が 高い.

複文は各々独立して対等な資格を持った2つ以上の対立節(맞선마디 *maj-seon-*

madi マッソンマディ) を羅列して一塊とする文としました。前の語節の述語は羅列形として後ろの語節につないだ文を言います[627].

(10) ア. 겨울은 춥고, 여름은 덥다.

Gyeouleun chubgo, yeoreumeun deobda.

キョウルン チュプコ, ヨルムン トプタ.

冬は 寒く, 夏は 暑い.

カ. 달은 지고, 까마귀는 울고, 서리는 하늘에 왔다.

Daleun jigo, ggamaguineun ulgo, seorineun haneule chassda.

タルン チゴ, カマグィヌン ウルゴ, ソリヌン ハヌレ チャッタ.

月は 沈み, 烏は 鳴き, 霜は 空に 満ちた.

連合文も各々同じ資格を持った 2 つの語節がつながって一塊となった文を言います。前の語節の述語は羅列系以外の語尾 (씨끝 ssiggeut シクッ) によって後ろの語節につながります。連合文を別に立てるか, あるいはこれを「副詞語」を抱合した包有文と見るかという問題について, 結局連合文を立てたのは, その前後の語節のいずれもの間の関係が従属的ではなく, 対等の性格が強いためであると明らかにしました[628].

(11) ア. 심기는 괴롭지마는, 거두기는 즐겁다.

SimGINEUN goerobjiman, geodugINEUN jeulgeobda.

シムキヌン ケロプチマン, コドウギヌン チュルゴプタ.

植えるのは つらいが, 手入れするのは 楽しい.

カ. 봄이 오면, 꽃이 핀다.

Bomi omyeon, ggochi pinda.

ポミ オミョン, コチ ピンダ.

春が 来れば, 花が 咲く.

次は性質による文の体系についての内容です。『우리말본 (朝鮮語文法)』では文を, 性質によってまた体系を立てました。性質は話し手の聞き手に対する意向 (態度) を意味する。叙述文, 命令文, 疑問文, 請誘文 [勧誘文] 等がそれです [633].

性質による文の体系のために次のような基準を作りました。述語の態度に従って, 文は 2 つに分かれます。第 1 に, 話し手が聞き手に共同の動作をしようと要求する文が請誘文 [勧誘文] であるとししました。第 2 に, 話し手がただ自分の個別の考えを表す分がありますが, これはまた 2 つに分けました。1) 考えを話し手にのみ限定して聞き手は考慮しない文が叙述文であり, 2) 必ず聞き手を考慮して聞き手になんらかの考えを提出するもので, 話し手の考えを中心に聞き手が

そのまますることを要求する文が命令文，聞き手を中心に聞き手になんらかの
考えの発表を要求する文が疑問文であるとししました。

(12) 性質による文の体系

ア. 個別的関係

1. 单独的態度……………叙述文

2. 関係的態度

 [話し手中心] ……………命令文

 [聞き手中心] ……………疑問文

カ. 共同的関係……………請誘文 [勧誘文]

性質と関連した文について『우리말본 (朝鮮語文法)』では次のようないろ
ろな語法の現象も分析して提示したことは注目すべきことです。このような分
析の内容は現代国語学の文章論研究でも主要な対象となっています[635-648]。

第1に、文の形式的特性を分析しました。叙述文は述語の叙述形 (배움꼴 be-
pulgol ペプムコル) で終わります。感嘆文 (느낌꼴 neuggimweol ノキムオル)
を別に設定しなかった根拠も形式特性で説明しました。命令文の形式的特徴は
述語の語尾が命令形 (시킴꼴 sikimgol シキムコル) であり、疑問文は述語の語
尾が疑問形 (물음꼴 muleumgol ムルムコル) であり、請誘文 [勧誘文] は述語
の語尾が請誘形 (피임꼴 ggoeimgol クエイムコル [勧誘形]) です。

第2に、各々の文が持つ語法上の制約を分析しました。主語の場合、叙述文と
疑問文は別に制約がありませんが、命令文は主語が2人称でなければならず、
請誘文 [勧誘文] は主語が話し手と聞き手が一緒になければならないという事実を
指摘しました。述語の場合、命令文と請誘文 [勧誘文] は動詞 (움직씨 umjigssi
ウムジクシ) だけが許容されるという事実を明らかにしました。このような制約
の現象についての研究は現代文章論研究にそのまま引き継がれています。

第3に、各々の文が持つ話用論 [語用論] 的用法を分析しました。叙述文が疑
問文として用いられる場合 (13 ア)，疑問文が叙述 (13 カ)，命令 (13 サ)，請
誘 [勧誘] (13 タ) として用いられる場合、請誘文 [勧誘文] が命令として用い
られる場合 (13 ナ) を提示した話用論 [語用論] 的解釈もまた注目すべきです。

(13) ア. 누구에게 “나는 못하겠다.” (↑)

Nuguege “Naneun moshagessda”

ヌグエゲ “ナヌン モッタゲッタ”

誰かに「わたしは できない」。

(물음: 못하겠다고 하느냐?)

(Moshagessdago haneunya?)

(모ッタ게ッタ고 하느냐?)

(疑問: できないと 言うのか?)

カ. 너도 사람이냐?

Neodo saraminya?

ノド サラミニャ?

おまえも人間か?

(배품: 너는 사람이 아니다.)

(Neoneun sarami anida.)

(ノヌン サラミ アニダ.)

(叙述: おまえは 人間では ない.)

サ. 영길아, 너는 밥을 안 먹니?

Yeong'gila, neoneun babeul an meogni?

ヨンギラ, ノヌン パブル アン モンニ?

ヨンギル, おまえは ご飯を食べないの?

(시킴: 밥을 먹어라.)

(Babeul meogeora.)

(파블르 모고라)

(命令: ご飯を 食べな.)

タ. 자네 같이 안 가겠는가?

Jane gati an gagesseun'ga?

チャネ カチ アンガゲンヌンガ?

君 いっしょに 行かないか?

(찌임: 같이 가세.)

(Gati gase.)

(카치 카세.)

(請誘 [勧誘]: いっしょに 行こう.)

ナ. 나 그 책 좀 보세.

Na geu chaeg jom bose.

ナ ク チェクチョム ポセ.

ぼく その 本 見よう.

(시킴: 그 책 좀 보여 주어라.)

(Geu chaeg jom boyeo jueora.)

(ク チェクチョム ポヨジュオラ)

(命令: その 本 見せて くれよ.)

4. 『한글갈 (正音学)』とウェソル先生の訓民正音と文献の研究

4.1. 『한글갈 (正音学)』の意義

『한글갈 (正音学)』は『우리말본 (朝鮮語文法)』とともにウェソル先生の主要な著書です。1940年に正音社から初版を刊行し、1976年に『고친 한글갈 (改訂 正音学)』としてやはり正音社から修訂版を刊行しました。許雄先生はその著書『최현배 (崔鉉培)』(1993年、東亜日報社)で『한글갈 (正音学)』を次のように評価しました。

「わが民族の知的産物のうち最も重要なものであるために、知的探求の最も緊密な対象とならなければならないハングルを研究、体系化した結果は、『한글갈 (正音学)』にあらわれた。勿論文字学は久しく前から言語学の1部門として存在してき、またハングルについての研究も金允経* Gim Yun'gyeong キム・ユンギョン、方鍾鉉** Bang Jonghyeon パン・ジョンヒョンの著書や他の方々の論文がなくはなかったが、これを研究する学問を国語学の1つの部門として体系化したものはこの『한글갈 (正音学)』が最初であり、その後にもこの方面の著書でこれに次ぐべきものはいまだにあらわれていない」。

*【注】(1894年-1969年). 1911年周時経に教えを受ける、1917年延禧 Yeonheui ヨンヒ専門学校文科入学、1926年立教大学入学、1929年史学部卒。梅花女高教師。1942年朝鮮語学会事件で検挙、獄中にある。独立後延禧大学教授、1962年退職、1963年漢陽 Hanyang ハニャン大学文理科大学長。

**【注】(1905年6月3日—1952年11月18日). 平安北道 Pyeongan-Bugdo ピョンアンブクト定州 Jeongju チョンジュ出身。1928年京城帝大文科入学、独立後京城大学及びソウル大学国文学科教授、1951年12月ソウル大学文理科大学学長〔日本の学部長〕。古語、方言等に業績がある。1947年には独島〔日本名：竹島〕学術調査団に石宙明氏らとともに加わっている。

『한글갈 (正音学)』は初版の序文でこの本の性格をよく明らかにしています。「この本は『訓民正音』に関する一切の歴史的問題とハングルに関する一切の理論的問題を大小ともに網羅し、これを体系的に論及し、その隠れたものを取り出し、その暗いものを明るみにし、その雑然としたものを整理し、もって整然たる体系の正音学を立て、上は申景濬*、柳僖**の偉業を継ぎ、下は周時経師の教えの遺志を成し遂げようとした」。

*【注】(1712年-1781年). 実学者。1750年(英祖26年)『訓民正音韻解』著。

**【注】1824年(純祖24年)『諺文志』著。

『한글갈 (正音学)』は大きく2つの部門から構成されています。第1篇は歴史篇であり、第2篇は理論篇です。歴史篇は「ハングル使用」の歴史的発展過程

と、ハングルについての研究の歴史となっていますが、ちょうどこの本の刊行が終わる前に本当の訓民正音の謄本が発見され、その本文をこの本の頭に載せ、またその説明をこの本に混ぜて入れ、訓民正音研究に大きな光を投げ入れてくれました。『한글갈 (正音学)』ではハングル発展の歴史とハングル研究の歴史を区分して叙述しました。併せて朝鮮語と朝鮮文字を研究し得る膨大なハングル文献資料を提示してくれており、理論篇では 6 篇の論文を通してウェソル先生の学問の無限の深さが隙間のない論拠によって展開されています。この研究によって国語の文字論と音韻論の通時的及び共時的体系が究明されたと評価できます。また国語の文字政策の根本問題を解決することのできる方案もともに提示されているという点も高く評価できます。³⁾

4.2. 『한글갈 (正音学)』にあらわれた訓民正音の価値

『한글갈 (正音学)』でウェソル先生が眺めている訓民正音について考察しようと思います。『한글갈 (正音学)』でウェソル先生は次のように訓民正音の価値を明らかにし、そして讃えています。

(14) ア. 『訓民正音』の本文は極めて簡潔で、何枚かに過ぎない……。しかし、これほど簡潔な中でも、その内容がすべて要領を尽くしているから、実に『訓民正音』はその中身とともに外形もよく磨かれた文章であると言わざるを得ないと考える[349 ページ]。

カ. ハングルはその構造が最も科学的であり、かつその字形が整然としていて美しく、その文字数が少なく、かつその音が豊富であり、その学習が易しく、かつその応用が広く、文字としてのすべての理想的条件をほとんどみな備えていると言うべきであるから、この文字を作り出した世宗大王一人当代の明るい才知が能く千古万人の才知を超越したと言っても過言ではないであろう。そこで、この文字を見る者をして自ずと讃嘆を禁ずる能わざらしめるから、これは古今異なることなく、裏表が同じなのである[647 ページの한글 기림「(ハングルの讃える)」から]。

サ. ハングルは科学的な組織をもって民衆教化の使命を帯びて生まれた文字である。今日わが国民の貧しく脆く乱れた後進性に勝って、世界の人々とともに肩を並べて進もうとするならば、その最も根本的な方法がハングルのみをもって文字生活の大道とすることにあるから、大韓の国の真の独立と自由の発展もここで花咲き、倍達 (Baedal ペダル [朝鮮]) 民族の民主主義的繁栄と幸福もここで実を結び、民族の理想「明るき世の実現」もこれによって成し得るのである。ハングルは民族の生命にして誇りであり、国の力にして

望みである。ハングル専用によって民族文化を輝かせよう[650 ページ「남은 종이에 이 지은이의 기림을 붙인다 (余白にこの作者の賛辞を附す)」から]。

4.3. 『한글갈 (正音学)』の文献研究

『한글갈 (正音学)』はハングルに関する歴史的問題と理論的問題を扱ったのが主たる内容です。この中で歴史的問題と関連した部分では各時代別に刊行されたハングル文献資料についての全般的な叙述がなされていることが大きな研究成果です。ハングルだけの使用、諺解（漢文の訳）、漢字の訳、外国語の訳の4つに分類された文献を6つの時期に分けて、これについての書誌学的解説を詳しくしました。このようなウェソル先生の文献学的研究の特徴によって次のような3つを立てることができると考えます。

(15) ウェソル先生の文献学の特徴

- ア. 分類方法の独創性
- カ. 考証方法の実証性
- サ. 記述方法の体系的性

第1に、『한글갈 (正音学)』における文献分類方式の特徴は独創的だと言えます。まず一時的には各々の文献に使用されたハングル使用の方法によって分類しました。このような分類はハングルが創制されて以来今まで刊行されたハングル関連文献を一時的に分けたものです。ハングル発展の歴史を考察するには時代別や主題別の分類を一時的基準とするよりはこのような類別分類をまずする方が妥当だと判断したものです。また階層的分類方法、兩分的分類方法もまた独創的な分類方法だと言えます。

第2に、『한글갈 (正音学)』で考証方法の特徴は実証的だと言えます。訓民正音原本の詳細な検討から実証的な考証方法が現れてきました。訓民正音の本文部分についての校勘を試みたこともやはり実証的考証方法を明らかにしたのです。また各々の文献の関連記録を精密に調査し、これら関連記録の内容を総合して該当の文献についての交渉を正確に行いました。

考証法方法の実証的だという評価は版本を実証的に考証したことでも確認することができます。『한글갈 (正音学)』では原刊本と重刊本概念が定立されており、いろいろの異本の中で原刊本を明らかにする努力を示しました。併せて『한글갈 (正音学)』では文献の刊行年代を把握するに際して刊記を重視する態度を見せる等、文献の刊行時期についても実証的に交渉しました。

第3に、『한글갈 (正音学)』の記述方法の特徴は体系的であると言えます。文献を提示する方式において体系的な記述を見ることができます。一例を挙げると、諺解部類の場合、まず文献を編纂時期別に分け、各々の時期の中では王朝別

に分け、各々の王朝の中では年度、主題によって体系的に記述しました。また原刊本と重刊本の関係も体系的に記述しました。重刊本は再び刊行される場合、全体的な記述は原刊本の項目でなされますが、重刊本については該当の時期別に再び提示しているのを見ることができます。

このように『한글갈 (正音学)』は多くの量のハングル文献を記述し、ハングル創制以後現代に至るまでのハングル使用の歴史的展開過程を叙述しただけでなく、それらの文献を独創的な方法で分類し、実証的に考証し、これを体系的に記述しました。この点がまさにウェソル先生の文献学的研究において最も大きな業績であり、また今日に継承して発展させなければならない課題だと考えます。

5. 結語—ウェソル先生の学問の正しい継承のために

わたくしは今日学術大会で朝鮮語と朝鮮文字の研究で最も際立った学者ウェソル崔鉉培先生が成した学問について申し上げました。許雄先生は「国語学界には限りなく愛する気持ちをもって朝鮮語と朝鮮文字を研究し、守り、教える人々がいるかと思えば、外国の言語と文字を見るかのような人々もあり、もっと否定的な目は外国の言語と文字に対して朝鮮語と朝鮮文字を見下げる人々も存在してき、そして今もいる」と指摘したことがあります。ウェソル先生の学問は国語研究を言語科学に昇華させ、これを基礎に国語を守り、育てる実践運動を展開したということに意義があることも確認しました。

ウェソル先生の著述の中で学問的に最も卓越した著書は『우리말본 (朝鮮語文法)』と『한글갈 (正音学)』です。『우리말본 (朝鮮語文法)』は現代朝鮮語の音韻、単語、文について豊富な資料を土台に科学的に研究した本であり、『한글갈 (正音学)』はわが古文献を体系的に整理しつつ訓民正音について本格的に研究した本です。

『우리말본 (朝鮮語文法)』の研究方法は国語学が芽生え始める頃に、国内外の数多い研究業績をあまねく渉猟し、それを果敢に受容し、朝鮮語の特性に合うようにもっと磨き上げ、国内でも国外でも得られる知識は広く深い思索を通して考え出された態度だと言えましょう。まさにこのような朝鮮語研究が今日われわれすべてが継承し、発展させなければならない課題だと考えます。

『한글갈 (正音学)』は多くの量のハングル文献を記述してハングル創制以後現代に至るまでのハングル使用の歴史的展開過程を叙述し、それらの文献を独創的な方法で分類し、実証的に考証し、これを体系的に記述しました。このような文献研究の方法が今日われわれすべてが継承し、発展させなければならない課題だと考えます。このために国内外の言語学者、そして今日この席をともになさっているすべての方々が力を合わせて実践することを確認して、わたくしの

お話を終わります。ありがとうございました。

【筆者注】

- 1) 『우리말본 (朝鮮語文法)』について、ウェソル先生の弟子ではない学者の評価 2 例を参考として挙げるならば次の如くである。かなり対照的な評価であることが注目される。

『우리말본 (朝鮮語文法)』は単に外国の学説だけでなく、周時経や金料奉 Gim Dubong キム・ドゥボン*のような先行の学者たちの文法研究も批判的に受け入れて、膨大な国語資料を正確に分析、整理して整然とした文法体系を樹立したのである。いかなる言語観からであれ、今後の国語文法の研究は『우리말본 (朝鮮語文法)』から始めなければならないであろう。さほどにウェソルの文法研究は素晴らしかったのである」(安秉禧, 1985)。

* 【訳注】(1989 年 2 月 16 日-1958 年?)。朝鮮の独立運動家、政治家、ハングル学者。慶尚南道 Gyeongsang-Namdo キョンサンナムド東萊郡 Dongraegun トンネグン出生。周時経のもとで学び、朝鮮語辞典の編纂にも参加。1919 年三・一運動に参加、上海に亡命、大韓民国臨時政府委員、李東輝 Yi Donghui イ・ドンフィらを通して共産党入党、1935 年朝鮮民族革命党を結成、1942 年中国共産党の本拠地延安 Yan'an イェンアンで朝鮮独立同盟委員長、日本敗戦後 1945 年末帰国、平壤 Pyeongyang ピョンヤンに赴く。1946 年 2 月北朝鮮臨時人民委員会副委員長、延安での同志らと朝鮮新民党結成、朝鮮共産党と朝鮮新民党が合併して北朝鮮労働党成立、党中央委員会委員長、1948 年最高人民会議常任委員長、1949 年朝鮮労働党 (南北朝鮮の労働党が併合) 副委員長。1950 年朝鮮戦争開戦をめぐって金日成 Gim Ilseong キム・イルソンと対立、1957 年副委員長解任、1958 年に処刑されたと思われる。金日成綜合大学初代総長。朝鮮語文研究所と科学院で「朝鮮語新綴字法」(1948 年)と「朝鮮語綴字法」(1954 年)に貢献した。

「ところによっては途方もない誤謬や混乱を『우리말본 (朝鮮語文法)』は持っている。……『우리말본 (朝鮮語文法)』の盲信者が専門家の中にもいるという事実が時々筆者をして驚きともどかしさを禁じ得なくさせたのである。……『우리말본 (朝鮮語文法)』はその本来の目的である、個別言語としての朝鮮語が持つ用法と規則の正確な記述と体系化に失敗した」(李翊燮 1967)。

- 2) 1937 年初刊の『우리말본 (朝鮮語文法)』の最後の修正版は 1971 年の「四訂版」である。今日の発表で引用する内容の [] の中の数字は 1971 年版の

項目番号を指す.そして第3章で申し上げる内容は全面的に筆者の先行研究の權在一(1993及び2000)の内容による. 권재일 1993, 『우리말본』의 월간, 「새국어생활」 3-3, 국립국어연구원(權在一 1993, 『우리말본(朝鮮語文法)』の統辭論, 『新國語生活』 3-3, 웨솔會). 권재일 2000, 외솔의 말본 연구와 말본 연구가 나아갈 방향, 「나라사랑」 100, 외솔회(權在一 2000, 웨솔의文法研究と文法研究が進むべき方向, 『Narasarang 나라사란(愛國)』 100, 웨솔會).

- 3)今日の発表で引用する内容は[]の中の数字は『고친 한글갈(改訂 正音学)』のページ数を示す.そして第4章で申し上げる内容は全面的に筆者の先行研究の權在一(1994及び2012)の内容による. 권재일 1994, 『한글갈』을 통해 본 외솔의 문헌 연구, 「나라사랑」 89, 외솔회(權在一 1994, 『한글갈(正音学)』を通して見た웨솔의文獻研究, 『Narasarang 나라사란(愛國)』 89, 웨솔會). 권재일 2012, 세종 학문의 국어학사적 이해, 「615 돌 세종날 기념 전국 국어학 학술대회 논문집」, 한글학회(權在一 2012, 世宗の學問の國語學史的理解, 『615 회世宗の日記念全國國語學學術大會論文集』, 한글學會).

<参考文献>

- 강복수 1972, 『국어 문법사 연구』, 형설출판사(姜馥樹 1972, 『國語文法史研究』, 螢雪出版社).
- 고영근 1995, 『최현배의 학문과 사상』, 집문당(高永根 1995, 『崔鉉培先生の學問と思想』, 集文堂).
- 권재선 1988, 『국어학 발전사』(합본), 우골담(權在善 1988, 『國語學發展史』(合本), 牛骨塔).
- 권재일 1993, 『우리말본』의 월간, 「새국어생활」 3-3, 국립국어연구원(權在一 1993, 『우리말본(朝鮮語文法)』の統辭論, 『新國語生活』 3-3, 國立國語研究院).
- 권재일 1994, 『한글갈』을 통해 본 외솔의 문헌 연구, 「나라사랑」 89, 외솔회(權在一 1994, 『한글갈(正音学)』を通して見た웨솔의文獻研究, 『Narasarang 나라사란(愛國)』 89, 웨솔會).
- 권재일 2000, 외솔의 말본 연구와 말본 연구가 나아갈 방향, 「나라사랑」 100, 외솔회(權在一 2000, 웨솔의文法研究と文法研究が進むべき方向, 『Narasarang 나라사란(愛國)』 100, 웨솔會).
- 권재일 2012, 세종 학문의 국어학사적 이해, 「615 돌 세종날 기념 전국 국어학 학술대회 논문집」, 한글학회(權在一 2012, 世宗の學問の

- 國語學史的理解, 『615 回世宗の日記念全国國語學學術大會論文集』, ハングル學會).
- 김 계곤 1985, 일제하 국어국문학 5 대 저서에 대한 재인식, 최 현배 -- 『우리말본』, 「한글」 190, 한글학회 (金桂坤 1985, 日帝下國語國文學 5 大著書についての再認識, 崔鉉培『우리말본 (朝鮮語文法)』, 『ハングル』 190, ハングル學會).
- 김 석득 1971, 우리말본, 「나라사랑」 1, 외솔회 (金錫得 1971, 우리말본 (朝鮮語文法), 『Narasarang 나라사랑 (愛國)』 1, 웨솔會).
- 김 석득 1985, 일제하 국어국문학 5 대 저서에 대한 재인식, 최 현배 -- 『한글갈』, 「한글」 190, 한글학회 (金錫得 1985, 日帝下國語國文學 5 大著書についての再認識, 崔鉉培『한글갈 (正音學)』, 『ハングル』 190, ハングル學會).
- 김 석득 2000, 『외솔 최 현배 학문과 사상』, 연세대학교 출판부 (金錫得 2000, 『ウェソル崔鉉培の學問と思想』, 延世大學出版部).
- 남 기심 1980, 국어문법 연구사에서 본 『우리말본』, 「동방학지」 25, 연세대학교 국학연구원 (南基心 1980, 國語文法研究史から見た『우리말본 (朝鮮語文法)』, 『東方學志』 25, 延世大學國學研究院).
- 서 정수 1974, 『우리말본』의 월갈 연구, 「나라사랑」 14, 외솔회 (『우리말본 (朝鮮語文法)』의文章論研究, 『Narasarang 나라사랑 (愛國)』 14, 웨솔會).
- 안 병희 1985, 최현배, 『국어연구의 발자취』 (1), 서울대학교 출판부 (安秉禧 1985, 崔鉉培, 『國語研究の足跡』 (1), ソウル大學出版部).
- 외솔회 2010, 『외솔 최 현배 선생 40 주기 추모식 학술발표회 논문집』, 외솔회 (ウェソル會 2010, 『ウェソル崔鉉培先生 40 周忌追慕式學術發表會論文集』, 웨솔會).
- 이 익섭 1967, 『우리말본』 연구, 「논문집」 9, 전북대 (李翊燮 1967, 『우리말본 (朝鮮語文法) 研究』, 『論文集』 9, 全北大學).
- 이 호권 1993, 『한글갈』의 문헌 연구, 「새국어생활」 3-3, 국립국어연구원 (李浩權 1993, 『한글갈 (正音學)』의文獻研究, 『新國語生活』 3-3, 國立國語研究院).
- 최 현배 2012, 『외솔 최 현배 전집 1~27』 (전 28 권), 연세대학교 출판문화원 (崔鉉培 2012, 『ウェソル崔鉉培全集 1~27』 (全 28 卷), 延世大學出版文化院).
- 허 응 1974, 외솔 선생의 생애와 학문, 「나라사랑」 14, 외솔회 (許雄 1974, 웨ソル先生の生涯と學問, 『Narasarang 나라사랑 (愛國)』 14, 웨솔會).

- 허웅 1983, 『국어학, 우리말의 오늘·어제』, 샘문화사 (許雄 1983, 『国語学, 朝鮮語の現在・過去』, 泉文化社).
- 허웅 1991, 외솔 선생의 정신 세계와 그 학문, 「동방학지」 71~72, 연세대학교 국학연구원 (許雄 1991, ウェソル先生の精神世界とその学問, 『東方学志』 71~72, 延世大学国学研究院).
- 허웅 1993, 『최현배』, 근대인물한국사 408, 동아일보사 (許雄 1993, 『崔鉉培』, 近代人物韓國史 408, 東亜日報社).
- 허웅 1999, 우리말글을 보아 온/보는 두 가지 눈, 「한힌샘 주시경연구」 12, 한글학회 (許雄 1999, 朝鮮語と朝鮮文字を見て来た/見る 2つの目, 『白泉周時經研究』 12, ハングル学会).

(菅野裕臣訳)

(567 돌 한글날 기념 전국 국어학 학술 대회 2013 년 10 월 11 일(금) 10:00-16:30 울산박물관 강당 제 1 부 주제 발표: 발표문 567 회ハングルの日記念全国国語学学术大会 2013 年 10 月 11 日 (金) 10:00-16:30 蔚山博物館講堂 第 1 部 主題発表: 発表文, 15-30 ページ).